April 11, 2016
第 25 号

NEWSLETTER

Teacher Development & Support Center

大阪女学院大学　大阪女学院短期大学

教員養成センター

●巻頭エッセイ「世界でいちばん貧しい大統領のスピーチ」の問いかけに 1
● 2015 年度教員免許状更新講習３ 報告 2
●『OJU 教職活動報告・研究 Vol. 6』の発行 3
●第４回「英語の教え方教室合宿」in 若狭（第 43 回勉強会）案内 ... 3
●授業の玉手箱 「思考ツール　Graphic Orgnizer」 4
●書籍紹介 『はじめてのアクティブ・ラーニング！　英語授業』 4
● 2016 年度教員免許状更新講習１・２ 案内 4
●編集後記 4

巻頭エッセイ　「世界でいちばん貧しい大統領のスピーチ」の問いかけに

中井　弘一

『世界でいちばん貧しい大統領のスピーチ』という絵本が通販の書籍部門でよく売れている。2012 年ブラジルのリオデジャネイロで、環境が悪化した地球の未来について話し合う国際会議（国連持続可能な開発会議［リオ＋ 20］）が行われた。これといった名案もなく、型どおりのスピーチが行われていった中で、最後に当時ウルグアイの第 40 代大統領であったホセ・ムヒカ (Jose Mujica) 氏が質素な背広にネクタイなしのシャツ姿の出で立ちで登壇し、スピーチを行った。最後の演説という順番のせいか聴衆が少なくなった会場で、その演説は終わると同時に大きな拍手を巻き起こした。その演説を日本語訳にしたものの一つが冒頭の絵本である。インターネットのサイトで演説の英語訳を見つけ英文演説を読んだ。演説の問いかけに心動かされた。そして前大統領のように問いかける姿勢・意識について考えた。

> I ask this question: what would happen to this planet if the people of India had the same number of cars per family as the Germans? How much oxygen would there be left for us to breathe? More clearly: Does the world today have the material elements to enable 7 or 8 billion people to enjoy the same level of consumption and squandering as the most affluent Western societies? Will that ever be possible? Or will we have to start a different type of discussion one day? Because we have created this civilization in which we live: the progeny of the market, of the competition, which has begotten prodigious and explosive material progress. But the market economy has created market societies. And it has given us this globalization, which means being aware of the whole planet. Are we ruling over globalization or is globalization ruling over us? Is it possible to speak of solidarity and of "being all together" in an economy based on ruthless competition? How far does our fraternity go?

演説の一部にこのような問いかけがある。分かりやすい言葉でまっすぐ心に突き刺さる問いかけである。こうした考えを意識していなかった自分に問い直さなければならないという気持ちが生まれる。環境問題だけでなく、グローバル化の波に流されていると思われる昨今の政治・政策をしっかり見つめ直さないといけないのではないだろうか。英語教育では、グローバル化に対応するためコミュニケーション能力の育成が最重要課題とされている。コミュニケーション能力の育成はもちろん大切なことである。しかしながら、それだけで良いのだろうか、それしかないのであろうか。

先日、知人の新進気鋭で教育熱心な英語の先生が Facebook で、英語を教えることの意味について呟いていた。

> These days I often wonder why I teach English. In the school where I work, students work on debate, discussion, and speech in English. (中略)
> However, what comes after teaching practical English? I teach practical English and its aim is to have students acquire language skill, but these days I feel the students are less motivated because we can't show the clear goal after teaching language. They are becoming able to speak English better and they practice speaking English even with Japanese students, but they hesitate to communicate with foreign people. Why do they study English then? I feel like, we focus on the education of practical English too much and less on growing global mind but I guess these two shouldn't be divided. What do you think about this point, guys?

"Why? So what?" などと問いかけるのは、物事の本質を考えようとする姿勢の現れである。英語科教員は、学校教育の中で英語教育に従事している。「教育」を担っているのである。決して英会話学校の教員ではない。英語のスキルを身に付けさせるだけではなく、その途中、その先にある英語「教育」の目的を語り、それぞれの生徒に学ぶ意味と喜びを持たせ、将来、社会の構成員として生きる教養・知恵をはぐくみ人間形成の育成に努めなければならない。教える側にそのための明確な教育目的がないと、教員にとっても生徒にとっても学びに見通しが立たないばかりか、学ぶことの意味や価値を見いだせなくなる。グローバル化だから英語のスキルが必要というのではなく、グローバル化とは何か、そこにある考え方はどのようにして生まれているのか、ぶつかり合う文化はどうあるべきか、その根源を、英語という言語教育に携わる者こそが伝えるべきではないか。英語科教員は、直接、対象言語を学ぶことを通して、英語そのものが文化である言語文化を扱い、英語社会において物心両面にわたる活動の様式と内容の総体となっている、ものの見方や価値観を生徒に習得させることもミッションとしている。外国でエレベーターに乗っているとき、知らない人から声をかけられるのはなぜか、"Why? --- Because …" と主張を大切にするのはなぜか、など英語国民に流れる根底の意識を英語という言語を通して考えさせる。その上で、スキルを身に付けさせることが望まれるのではないだろうか。これからの時代は、正解が一つのものだけを学ぶのではなく、正解が複数であったり、または正解がなかったりするものを学習していかねばならない。そうであるからこそ、英語という教養を身に付けさせてやりたい。どうすることが大切なのかという思考・判断はそうした基盤がないとできない。

教育は生徒の幸せの基盤であるべきだ。急激に変化する社会の中で物事の価値観も大いに変化している。そういうときこそ、それで良いのだろうか、何が本質であろうかと問いかける姿勢こそ大切である。教員は生徒の幸せを願って教育を行うのであるから。ムジカ前大統領は、演説の締めくくりを次のように結んでいる。

> Development cannot go against happiness. It has to work in favor of human happiness, of love on Earth, human relationships, caring for children, having friends, having our basic needs covered. Precisely because this is the most precious treasure we have; happiness.

■参考文献

Human happiness and the environment Address by Uruguayan president Jose Mujica Translated by Global Alliance, from: http://d.hatena.ne.jp/shiro-kurage/20130224/p2

特　集

教員免許状更新講習３　2015 年度

平成 28 年３月５日（土）　　報告：中井　弘一

アクティブ・ラーニングとは何か、英語の授業での方略を考える

- 「英語の授業とアクティブ・ラーニング：その目的を考える」
- 「英語の授業でのアクティブ・ラーニングの方略と導入・活用の工夫」

■ 講習３　受講者：14 名

I. 本講習の内容・方法についての総合的な評価（4 段階評価）　3.64

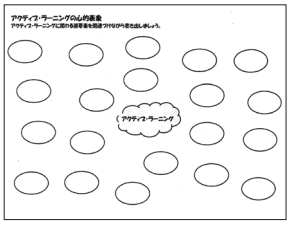
II. 本講習を受講したあなたの最新の知識・技能の修得の成果についての総合的な評価（4 段階評価）　3.64

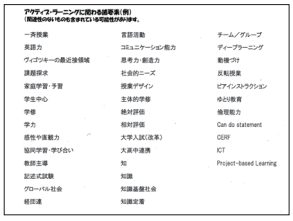
III. 本講習の運営面についての評価（4 段階評価）　3.92

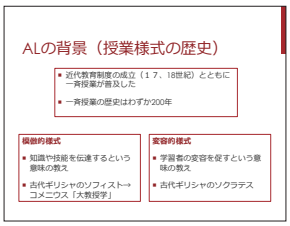
●「英語の授業とアクティブ・ラーニング：その目的を考える」

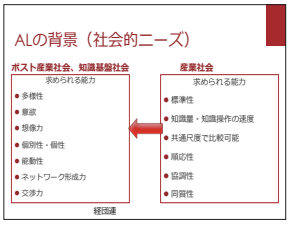
東條 加寿子

言語活動の充実という観点から、英語の授業の中でアクティブ・ラーニングを捉え直す。そこで、アクティブ・ラーニングは記録・説明・批評・論述・討論などの言語活動を充実させることで思考力や判断力、表現力を育むことを目的としているということを明らかにする。これまでの英語授業における取組みと何がどのように異なるのかを、実践例を挙げながら議論する。





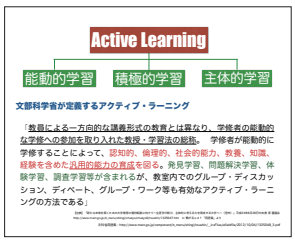


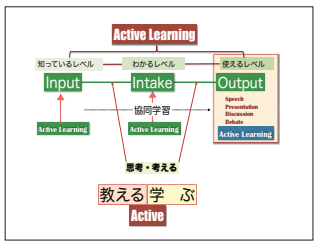


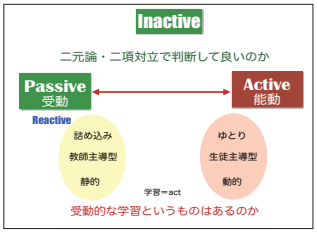
●「英語の授業でのアクティブ・ラーニングの方略と導入・活用の工夫」

中井 弘一

アクティブ・ラーニングはなぜ効果があると考えられているのか、また、個々の生徒の学習意欲や学習能力を高めるためにはどのようにアクティブ・ラーニングという学習方法を英語の授業で活用すればよいのか、その方略を中学・高校の英語の教科書などを使った実習を通して参加者と考える。







■ 受講者事前アンケート

●この講習の受講を希望した理由はなんですか。（一部紹介）

- これまでのように、教師主導で行いがちな英語の授業でなく、生徒たちが能動的に参加していく「アクティブ・ラーニング」の形での英語の授業の方法について考える機会にしたいと思うからです。
- よく「アクティブ・ラーニング」という言葉を目にするが、実際の授業でどのように活用できるか、様々な方法を知りたいと思ったため。自分自身の授業でも、もっとペアやグループでの活動を増やしたいが、なかなか増やせてないため、講義内容に興味を持ったため。
- 夏に講習１，２を受講し、プレゼンテーションや音声指導など各先生方の講義内容がとても興味深かったので講習3もぜひ受講したいと思っておりました。
- 夏に受講した講座が面白かったので。またアクティブ・ラーニングについて、考え、実践する必要性を感じているので、何かお導きいただけたら・・・と思っています。
- 講習の名称が最も魅かれました。今、現在まさに必要な課題である「アクティブ・ラーニング」は、最も身に付けたい授業法です。貴校の英語 Teaching 法に、学生時代から興味があり、是非、触れてみたいと思いました。
- アクティブ・ラーニングの効果的な教授法を学びたい。
- 大阪女学院の講習は有意義であると聞きました。また、アクティブ・ラーニングのノウハウをより深く学びたいということもあります。
- 「思考を活性化」する学習形態の具体的な方法について勉強したいと以前から考えていたため。講習名を見て、色々な角度から「アクティブ・ラーニング」について学べそうだと思い、受講を希望しました。
- 昨年の夏、受講させて頂いた時、とても良かったから。

■ 受講者コメント（一部紹介）

- 今までアクティブ・ラーニング＝グループ、ペアなどの活動と、漠然と思っていた。今回の話を聞いて、生徒に考える力を付ける活動であり、その方法はグループ、ペアだけでなく教科書の文を読んだり、小テストしたりする時にも使えると知った。今回、詳しく聞けたので、自分の授業にも活かしていこうと思う。ありがとうございました。
- アクティブ・ラーニングは今実際行っている授業とはかなりかけ離れていると実感しました。あまりにも大きく変わりすぎて、2020 年に大学入試が変わるまで、どのように移行していくのか、現場の教師がまだその問題に対してきちんと取り組めていないのが現状です。私たち教師がもっと知らねばと思いました。夏に引き続き受講させていただきましたが、両先生の熱心な指導に感謝します。盛りだくさんの内容で、続きはいただいた資料を熟読します。ありがとうございました。
- 本講習の内容は決して一日では終わらないような内容とボリュームもあったが、東條先生、中井先生両先生とも私たち参加者に多くを伝えようとすごく熱意が伝わってきました。さらに、私たちが飽きないよう、常に私たちに話しかけ、時にグループワークも取り入れて

いただき、あっという間の一日でした。本日お教えいただいた内容はどれもすぐに現場で役立つものばかりでした。決して現状を批判することなく、更に充実させるにはどうしたらよいのかというヒントを与えてくれる素晴らしい講習でした。ありがとうございました。

- アクティブ・ラーニングが何かという疑問から受講を決めました。あっという間に時間が過ぎ、もっと話を聞きことができればと思いました。資料も豊富なので、あとでじっくり読み返してみたいと思います。充実した中身の講習でした。
- 今日はありがとうございました。これまで受講した講習の中でも一番アクティブ・ラーニングについて深く考えることができました。これまで同じ指示や授業の詰め込みの部分があっても、ただ教師が一方通行にして終わるのではなく、発話や質問を授業に反映させていくことも、生徒が自分の授業をアクティブに受けていることになるとおっしゃったので、少し固く考えていたことも広がりのあるプランを創造できるようになって来ました。「仕込み」が大切なのは、生徒に楽しく能動的に学んでもらうために必要だと再認識しました。たくさんの資料をいただきました。必ず目を通し、勉強して行きたいと思います。ありがとうございました。
- 非常に内容の充実した講義でした。アクティブ・ラーニングの概念についてよく理解できたし、多くの実践例、導入例を紹介していただき、今後の自分の授業にも役立てそうです。久しぶりに自分が教授される側になり、「考える」「思考する」場面が何度もあり、アクティブ・ラーニングの期待される効果についても体感できたと思います。
- いろんな新しい試みがなされていることに感銘を受けました。生徒の自発性がいかに大事か、またそれを最大限活かすために教師が下準備をし、授業の運営に工夫をすることがいかに大事かよくわかりました。参考になりそうな資料もたくさんいただき、帰ってじっくりと読ませていただき、今後の授業に役立てたいと思います。
- 今まで自分が行っていたペアワーク、グループ活動が実はアクティブ・ラーニングと呼べる場合とそうでない場合があることに気付きました。生徒の思考力を育成できる質問を事前にたくさん用意しておくなど、しっかりと準備をしておく必要性を感じました。今後の授業に役立てたいと思います。ありがとうございました。
- アクティブ・ラーニングについて詳しく説明していただき、大変分かりやすかったです。グループワークやグループ・ディスカッションなども取り入れてあり、あっという間の6時間でした。夏の講習と合わせると3回受講しましたが、どの回も今の英語教育に必要な旬な話題で本当に参考になり、そして勉強になりました。ありがとうございました。

大阪女学院大学 教職課程機関誌　発行
『OJU 教職活動報告・研究 Vol. 6』

創刊号から本冊子の印刷、表紙の編集を携わっていただいていた印刷業者ぷりんと工房のご主人が年末に他界された。不治の病に冒され余命のことを気にされながらも最後まで明るく元気に目の前の仕事に取り組まれておられた。広野さんの休むことなく懸命に仕事に向き合って最期を迎えられた姿に、教育に打ち込む者の持つべき魂を感じた。

一途に懸命に頑張る教員の姿に生徒は感銘を受ける。教壇に立つということはそういう魂を必要とする。学び続ける教員こそ、生徒に新たな知識や夢を語ることができる。斎藤孝も著書『教育力』で、「教師が学ぶことをやめると、教育力は落ちる。というのは、生徒の側はその先生の勢いのようなものを感じとり、それを学ぶ動機に代えるからである。その先生がやる気に満ちていて、自分もまだうまくなりたい、もっとこの世界をよく知りたいという勢い、遠くへ向かっていく強い力を見せたとき、その力に反応して、『ああ、自分もそういうふうになってみたいな』と生徒も思うものなのだ」と述べている。

この 2015 年度機関誌 Vol.6 も不断の努力を惜しまない現職教員に皆さんに日々生命力を与え続ける太陽のようでありたいと願う。持てるものを見返りを求めず惜しみなく与えることこそ教育の本質である。

目 次

巻頭言　これからの英語教育の改善・充実方策について

Ⅰ　2015 年度活動報告
1. 平成 27 年度夏季教員免許状更新講習1
2. 平成 27 年度夏季教員免許状更新講習2
3. 授業デザインスキルアップ演習
4. 2015 年度勉強会「英語の教え方教室」報告
第 36 回 勉強会「日本語と英語の発想の違いを認識した文法指導の在り方」
兼第 3 回「英語の教え方教室」合宿 in 名張
第 37 回「スクラッププック・プロジェクト―英語嫌いの高校生を支援する取り組み―」
第 38 回「新しい英語教室の創造：“反転授業”の理論とその実践」
第 39 回「教職フィールドワーク（英国）報告・課題研究発表 in English」
第 40 回「私の授業実践――自己効力感を高めたい『英語表現Ⅱ』」
第 41 回「生徒の英語力を鍛える―小テスト・定期テストなどの問題づくり、授業での問いかけの工夫―」
第 42 回「中学生の英語の学びを促進するために―『よくわかる』『楽しい』『学習意欲』（卒業論文発表）」

Ⅱ　教員養成センター・ホームページ報告
1. 月別 HP アクセス件数 (2015 年1月～ 12 月)
2. 英語教育　巻頭リレー・エッセイ (2015 年 2 月～ 2016 年 1 月)
3. 書籍紹介　(2015 年 2 月～ 2016 年 1 月)

Ⅲ　OJU 教職ネットの 1 年
1. ML 配信記録配信件数推移（～ 2015 年 12 月）
2. OJU 教職ネット登録について

Ⅳ　教職課程活動報告
1. 教職サークル活動報告
2. 学生授業課題レポート：「英語科教育法Ⅰ」「英語科教育法Ⅱ」
・オーラル・メソッドは役に立つ指導法か　豊福　良子
・指導案と授業の進め方・教員にとっての指導案と指導案が授業にもたらすもの　芦谷　愛美
・ヒューマニスティック・アプローチは役に立つ指導法か　大西　晴日
3. 教職フィールドワーク（英国）報告・レポート
・マナースクールでの授業観察　重川　遥香
・マナースクールの授業を通して　豊福　良子
4. 教育実習報告・レポート
・教育実習を通じて考えた課題とその解決に向けたビジョン　戸田　浩美
5. 教員採用試験合格体験記　山本　妙

Ⅴ　教職専修 Graduation Project
・A study of factors to foster lower secondary school 1st year students to learn English　戸田　浩美

Ⅵ　実践記録・実践報告・授業研究ノート
■実践記録
1. コミュニケーション英語Ⅰ・Ⅱにおける授業改善の試み
三重県立名張高等学校教諭　岡本　泰
2. 探究活動のまとめとして、英語プレゼンをどのように改善するか
兵庫県立尼崎小田高等学校教諭　二森　正人
■授業研究ノート（自由論考）
・英語授業におけるアクティブ・ラーニングの一考察
本学教授　中井 弘一

資料　教員養成センター Newsletter　2015
第 21 号　第 22 号　第 23 号　第 24 号
投稿規定
編集後記

http://www.wilmina.ac.jp/ojc/edu/ttc/bulletin に掲載

第4回「英語の教え方教室合宿」in 若狭 案内
2016（平成 28）年5月7日（土）～8日（日）
於：福井県立若狭高等学校

大阪女学院大学「英語の教え方教室」の有志のメンバーが昨年の名張に引き続き、第 4 回「英語の教え方教室合宿（兼第 43 回勉強会）」を若狭の小浜で行うことを企画いたしました。今回は、バズ・ワード化しつつある「アクティブ・ラーニング」について、学習者が「ただ活動しているだけ」の状態から脱し、本当の学びとは何かを考えるとともに、さまざまな言語活動がどのように行われることでより効果を発揮しうるかを話し合います。翌日は、歴史情緒あふれる小浜市散策と新鮮な魚介類を堪能し、参加者の皆様の親睦をより一層深めたいと計画しています。

有志幹事：（チーム若狭）三仙　真也、水谷　友梨

詳細案内は http://www.wilmina.ac.jp/ojc/edu/ttc/course

【1日目】

12:50	開会　三仙　真也
13:00	基調講演 「アクティブ・ラーニングを見つめ直す ―学習者の学びを深める言語学習活動―」 大阪女学院大学　中井　弘一教授
14:35	グループ討論①　持ち寄り資料による話し合い 「やってよかった言語活動とその評価の在り方」
16:10	記念写真撮影 個人教材・資料配付
16:35	グループ討論②　持ち寄り資料による話し合い 「私の指導上の工夫や悩みの相談」
17:40	閉会　三仙　真也
19:00	夕食『若狭の新鮮な魚介類1』（小浜市内）、歓談等

【2日目】

7:30	朝食
8:30	小浜市内散策・塗り箸（水谷　友梨先生の解説ガイド付き） 昼食『若狭の新鮮な魚介類2』
14:00	昼食後、解散

授業の玉手箱

思考ツール　Graphic Organizer

中井　弘一

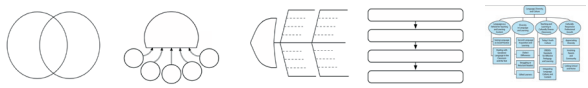
思考力の育成が求められているが、思考力の育成はどう指導すればいいのだろうか。Bloom's Taxonomy によると、①知識の獲得 (acquisition of knowledge)、②理解 (comprehension)、③応用 (application)、④分析 (analysis)、⑤統合 (synthesis)、⑥評価 (evaluation) と思考回路は分類されている。これに基づけば、思考の段階に応じた問いかけや考えるプロセスを助けるツールが必要である。その思考ツールとして、コンセプト・マップ、T チャート、クラゲ図などのグラフィック・オーガナイザーは、生徒の考えを整理させるのに有効であろう。

例

・**コンセプト・マップ（概念マップ）**：
筆者の授業でも毎回の課題とするのだが、一つの論説教材の内容や論点の流れの構造を図解させる。フローチャートや原因マップもこの分類になる。

・**チェーン・オブ・イベント（順序づけ）**：
教材内容の情報の順位付けで、論点を整理する。教材を読み進めながら出来事をまとめたり、以前に読んだ部分との関連を思い出したり、予測をしたりする。年表やプランニングなどもこの分類になる。

・**T チャート・ベン図（分類チャート）**：
教材に書かれている内容を 2 つに分類しその相違点を発見、比較、対比させるのに有効である。フィッシュボーンなどもこの分類である。



ベン図　クラゲ図　フィッシュボーン図　系列図　概念図

参考として、黒川 (2012) は考えることを支援する 20 のシンキングツールをサイトで紹介している。(http://www.ks-lab.net/haruo/thinking_tool/short.pdf)

書籍紹介

『はじめてのアクティブ・ラーニング！　英語授業』
山本崇雄（著）、128 ページ、学陽書房 (2015/12/11)、￥2,052

中等教育から高等教育まで、今、日本の教育界をアクティブ・ラーニングが席巻している。いうまでもなく、アクティブ・ラーニングは次の学習指導要領のキーワードの一つである。本書は、現職の中・高英語教員によって書かれたアクティブ・ラーニング導入本である。というよりも、著者らによる話題の「教えない英語授業」が実はアクティブ・ラーニングの実践にほかならないことを証明している書といってよい。

アクティブ・ラーニングは主体的な学修を実現する一つの手段である。周到な授業デザインやファシリテーターとしての役割等、教師の工夫と力量が求められる。同時に、アクティブ・ラーニングでは学生・生徒同士の学び合いが授業のダイナミクスの重要な要素となるため、質問したり、説明したり、議論したり、説得したり、まとめたりといった言語活動が欠かせない。

しかし、英語授業では従来、こういった言語活動の活性化を目指してきたのではないか。これまでの英語授業の取組とアクティブ・ラーニングによる英語授業は何が異なるのか。アクティブ・ラーニングの英語授業とはどのようなもので、何を目的としているのか。本書は、英語教員が今立っているところからアクティブ・ラーニングを臨み、アクティブ・ラーニングをデザインしていくのに恰好の書である。ペアワーク、グループワーク、情報ギャップからサイトトランスレーションまで、英語授業で取り扱ってきた活動が立派なアクティブ・ラーニングに転換しうると本書は伝えている。生徒が活動を始めない場合、孤立する生徒が出てきた場合、成績向上の問題、宿題・課題の問題、テストや評価の問題についての Q&A があるのもありがたい。

アクティブ・ラーニングの理論に迫るにはやや弱いが、英語教員にとってアクティブ・ラーニングを身近なところに引き寄せてくれる一冊である。

（東條　加寿子）

大阪女学院大学「教員免許状更新講習 1・2」平成 28 年度講習

http://www.wilmina.ac.jp/ojc/edu/ttc/certificate

各講習：中学校英語科教員・高等学校英語科教員　計 30 名

■講習1　平成 28 年8月8日（月）9：10 ～ 16：40

「アクティブ・ラーニングとは何か、英語の授業での方略を考える」

・英語の授業とアクティブ・ラーニング：その目的を考える
東條 加寿子　大阪女学院大学 教授

・英語の授業でのアクティブ・ラーニングの方略と導入・活用の工夫
中井 弘一　大阪女学院大学 教授

【第一部】記録・説明・批評・論述・討論などの言語活動を充実させることで思考力や判断力、表現力を育むことを目的としているアクティブ・ラーニングはこれまでの英語授業における取組みと何がどのように異なるのかを、実践例を挙げながら議論する。【第二部】アクティブ・ラーニングはなぜ効果があると考えられているのか、また、アクティブ・ラーニングという学習方法を英語の授業で活用すればよいのか、その方略を中学・高校の英語の教科書などを使った実習を通して参加者と考える。

■講習2　平成 28 年8月9日（火）9：10 ～ 16：40

「いきいきとした英語指導の工夫」

・発音・音読指導
夫 明美　大阪女学院短期大学 准教授

・英語音声情報を反映した発話タスク
東條 加寿子　大阪女学院大学 教授

・授業を活性化する発問・小テスト
中井 弘一　大阪女学院大学 教授

【発音・音読指導】授業テキストなどを用いた体験型ワークショップを通して、発音向上のための練習を行い音読指導のヒントについて考える。【発話タスク】発音や強勢、イントネーションなどの英語音声のしくみを実際の発話に活かし反映させることを促すタスクについて考える。【発問・小テスト】英語の授業に思考を刺激する息吹を与える発問や小テストの在り方を、「気づき」「思考力」「波及効果」をキーワードに発問例や小テスト例などを通して考える。

■ 受講申し込み受付

平成 28 年 4 月 18 日（月）より 7 月 22 日（金）までに大阪女学院大学　教員養成センター「教員免許状更新講習」担当へお申し込みください。（申込方法）教員養成センターメールアドレス (ttc@wilmina.ac.jp) 宛に、1) お名前（漢字・ふりがな）2) メールアドレス 3) ご連絡先電話番号 4) ご勤務先・所属等 5) 希望講習を明記してメールを送信ください。一週間以内に本学より申込受付確認メールとともに受講申請手続きについてご案内いたします。

○ 受講料　5,000 円（所定の口座へ振り込み）

編集後記

生も一度きり、死も一度きり、一度きりの人生だから、
一年草のように、独自の花を咲かせよう。
（坂村真民のことば）

教育に生きる覚悟は、毎年、自分の花を精一杯咲かせることだと思う。考えさせようと授業の工夫に奮闘努力する教師の姿を見て、学生や生徒は心動かされ、自分の花を咲かせようとする。新年度が始まる。

大阪女学院大学・大阪女学院短期大学
教員養成センター Teacher Development Support Center
540-0004　大阪市中央区玉造 2 丁目 26 番 54 号
Tel: 06-6761- 9371　Fax: 06-6761-9373
Homepage: http://www.wilmina.ac.jp/ojc/edu/ttc
e-mail: ttc@wilmina.ac.jp